

東北公益文科大学の学生と県議会議員との意見交換会開催状況

開 催 日 時	令和7年11月20日（木）11時00分～12時30分
開 催 場 所	東北公益文科大学（酒田市）
出 席 議 員	佐藤正胤、橋本彩子、石川正志、矢吹栄修、加賀正和
参 加 者	2～4年生6名
意見交換の概要	<p>「多様な若者が自己実現できる山形県を目指して」をテーマに、質疑応答形式で意見交換を行った。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児の親が働きやすい環境を整備するために、育児休業や介護休業のように、子どもが不登校になったときに利用できる休業について法律や条例で制度化してはどうか。また、不登校児の親に対する支援で一定の実績を上げている企業に対し、子育てサポート企業としての「くるみん認定」のような認定制度を設け、認定要件の一つに従業員への研修の実施を盛り込むなどし、不登校児問題への理解や意識の向上を図るようにしてはどうか。 ・若者が山形県に回帰しやすい環境を整備するため、県内の企業をより深く知ってもらえるよう長期的なインターンシップにおける宿泊費を支援してはどうか。また、就職支援のポータルサイトを設け、色々なサイトを見なくても大事な情報を得られるよう、情報の統合化に取り組んではどうか。 ・クマ対策として、クマ鈴を配付するという市町村単位や学校単位では実施例がある取組について、県単位で実施してはどうか。また、他県や国外に目を向ければもっと多くの対策があり、住民だけでなく観光客の安全対策に取り組んでいるところもある。山形県でも積極的にクマ対策に取り組んでもらいたい。 ・大学選択の場面で、学校の進路指導においては国公立を中心に紹介されるなど、幅広く大学の情報を入手することが難しいように感じるので、大学の特色がもっと積極的に発信されることが必要と考える。また、高校の探究学習において、情報を調べて終わるのではなく、もっと外に出て学習できる環境が必要なのではないか。 ・読み書き障がいなど、外見からは分からない障がいに苦しむ子どもたちの声を聴き、診断・療育など医療的な支援の充実及び入試制度における合理的配慮の拡充に積極的に取り組んでもらいたい。 ・東北公益文科大学の学生として地域活性化に関する活動を行っているが、広報や活動費への支援を、県としてももっと協力してもらえないか。また、個人の活動として情報セキュリティの大規模な勉強会に選考を経て出席した経験があるが、これを庄内地域で開催するためにはどのような働きかけが必要で、どのような支援を受けることができるか。